



●報告書 No. 6

患者の声を痛みの教育と研究に融合させる

疼痛は多面的な現象であり、痛みに悩む個人や痛み自体それぞれに異なるものである。教育者、学生、研究者にとって、患者と家族が語る経験は、疼痛がいかに関生活に影響するかをより正確に理解する助けとなる。患者の話に耳を傾けて共感することが、他者の痛みを評価するという難しいことを可能にしてくれる(2,7)。患者は痛みの教育と研究の協力者として、自身の疼痛管理に関わる臨床と研究の意志決定に影響を与えることができる。

痛みの教育における患者の声

- 患者と家族の話を聴く機会を持つことで、学生は医療へのアプローチを生物医学還元論的なものからより全人的、患者中心の方針へと変化することを経験する(6)。我々も診療の経過と治療効果の障害となるものを知ることができる(5)。
- 経験したことを深く考えながら書く訓練を積むことで、学生は主観的な病気の経験の数々を 探究し、より大きく共感し内省することが出来るようになる(2)。



© Copyright 2018 International Association for the Study of Pain. All rights reserved.

国際疼痛学会（IASP）は、科学者、臨床医、医療者、政策立案者が団結して痛みについての理解が進むように支援し、世界中の痛みに対する治療がより良いものになることを目指しています。

- 教育カリキュラムを開発し見直すことは、患者が医療者の教育に対して貢献し、また自分自身を見直す機会となる。
- 痛みを抱える人々は、（例えば委員会委員として、または授業や臨床実習の参加者として）教育カリキュラムの開発と修学に関する「利害関係者」といえる(8)。

患者を研究の協力者であり研究参加者として、痛みの研究に患者の声を取り入れる

痛みは非常に個人的で主観的な経験である。質的研究は各々の患者の個人的な声や語り（理解・認識）を取り入れていく研究手法である。研究チームの協力者として、そして研究参加者としての患者の声を研究に取り入れる方法を次に述べる。

- 患者や一般の人々が研究に関係すること（「患者の活動参加」として知られている）は、医療サービスを利用する人々「に対して」、「について」または「のために」ではなく、人々「とともに」または「によって」研究を行うこと、と定義される(6)。
 - 患者は研究の参加者となり、患者の声を集めたり研究に対する優先度を決めたりする主導権を握る。
 - 研究における患者や一般の人々の関与には、通知するだけから、意見を聞く、参加するだけ、協力する、権限を与えることまでの幅がある(4)。
 - 患者中心の研究における患者の関わりには、研究の総括、優先度の決定、研究の実施、知識の変換において、有意義かつ積極的な協力を必要とする。
 - 研究への患者の関わりに対する指導原理は、包括、支援、相互敬意、協力して築くこと（始めから協力者として働くこと）が含まれる(1)。
 - 多くの資金団体は助成金を立ち上げるいずれの段階でも患者の関与を必要としている。
 - 研究の実施に際して患者と協力することの利点は、研究登録者数の増加、助成金獲得、研究実施計画の立案、患者にとって適切なアウトカムを選択できることである(3)。
 - 研究への患者協力は、患者と研究者と医療のいずれにとっても利点がある可能性が科学的に評価され始めているのに伴い、急成長の分野である。



© Copyright 2018 International Association for the Study of Pain. All rights reserved.

国際疼痛学会（IASP）は、科学者、臨床医、医療者、政策立案者が団結して痛みについての理解が進むように支援し、世界中の痛みに対する治療がより良いものになることを目指しています。

● 質的研究は、患者の声に注目し、患者自身の経験について患者の考えや理解・認識を取り入れていく作業である。

- 質的なデータは、インタビュー、観察、文書によって集められる。
- インタビューで患者の経験について尋ねることは、豊富な情報と患者の興味のある話題についての理解を引き出すことができる。
- 「～について話してください」や「どのようにして～したのですか」というような自由に回答できる質問（オープン・クエスチョン）は選択型質問（クローズド・クエスチョン）に比べてより詳細な情報が得られる。
- 患者の”語り”は多くの文化で受け入れられており、このような形態の質的研究は「物語研究」と呼ばれる。
- 調査の焦点が「生きる経験」であることは現象学として知られている。例えば「繊維筋痛症の痛みとともに生きるとはどのようなものですか。」
- ある特定の質問や話題を調査するためには、色々な考え方を集める一般的な方法として、グループは6人から10人に対して1人のファシリテーターで構成されるのが良い。
- 質的研究法は多くの場合、患者中心的な研究課題を生み出す重要な出発点となる。

参考文献

1. Canadian Institutes of Health Research (2014). Strategy for Patient-Oriented Research Patient engagement Framework. Retrieved from: http://www.cihr-irsc.gc.ca/e/documents/spor_framework-en.pdf
2. Charon R, DasGupta S, Hermann N, Irvine C, Marcus ER, Colsn ER, Spencer D, and Spiegel M (2016). *The Principles and Practice of Narrative Medicine*. UK:Oxford
3. Domecq, J.P., Prutsky, G., Elraiyy, T., Wang, Z., Nabhan, M., Shippee, N., Pablo Brito, J., Boehmer, K., Hasan, R., Firwana, B., Erwin, P., Eton, D., Sloan, J., Montori, V., Asi, N., Dabrh, A.M.A., & Murah, M.H. (2014). Patient engagement in research: A systematic review. *BMC Health Services Research*, 14(89), 1-9.
4. IAP2 International Federation (2014). IAP2's Public Participation Spectrum. Retrieved from: https://c.yimcdn.com/sites/www.iap2.org/resource/resmgr/foundations_course/IAP2_P2_Spectrum_FINAL.pdf
5. INVOLVE (2017). What is public involvement in research? Retrieved from <http://www.invo.org.uk/find-out-more/what-is-public-involvement-in-research-2/>
6. James Lind Alliance (2016). The James Lind Alliance Guidebook Version 6. Retrieved from: <http://www.jla.nihr.ac.uk>



© Copyright 2018 International Association for the Study of Pain. All rights reserved.

国際疼痛学会（IASP）は、科学者、臨床医、医療者、政策立案者が団結して痛みについての理解が進むように支援し、世界中の痛みに対する治療がより良いものになることを目指しています。

5. Johnson, D.S., Bush, M.T., Brandzel, S. & Wernli, K.J. (2016) The patient voice in research—evolution of a role. *Research Involvement and Engagement*, 2(1), 6.
6. Kumagai, A.K. (2008) A conceptual framework for the use of illness narratives in medical education. *Acad Med*, 83(7), 653-8.
7. Watt-Watson, J., Garfinkel, P., Gallop, R., Stevens, B., & Streiner, D. (2000). The impact of nurses' empathic responses on patients' pain management in acute care. *Nursing Research*, 49(4), 191-200.
8. Watt-Watson J, Lax L, Davies R, Langlois S, Oskarsson J, Raman-Wilms L.(2017).The Pain Interprofessional Curriculum Design Model. *Pain Medicine* 2017; 18: 1040-1048 doi: 10.1093/pm/pnw337.

著者

Eloise C J Carr, BSc (Hons), RN, PGCEA, RNT, MSc, PhD
Professor, Faculty of Nursing
University of Calgary
Calgary, Alberta, Canada
Jennifer Stinson, RN-EC, PhD, CPNP
Mary Jo Haddad Nursing Chair in Child Health
Peter Lougheed CIHR New Investigator
Scientist, Child Health Evaluative Sciences
Nurse Practitioner, Chronic Pain Program
The Hospital for Sick Children
Professor, Lawrence S. Bloomberg, Faculty of Nursing, University of Toronto
Peter Gilgan Centre for Research and Learning
Hospital for Sick Children
Toronto, Ontario, Canada
Kathryn Birnie, PhD, CPsych
Postdoctoral Fellow
University of Toronto and Hospital for Sick Children
Peter Gilgan Centre for Research and Learning
Hospital for Sick Children
Toronto, Ontario, Canada

査読者

Marit Leegaard RN PhD
Associate Professor
Institute of Nursing and Health Promotion
Oslo and Akershus University College
Oslo, Norway
Fran Toye, MA Cantab MSc (PT) PhD
Qualitative Research Lead
Nuffield Orthopaedic Centre
Oxford University Hospitals NHS Foundation Trust
Oxford, England

翻訳者

横島弥栄子（東京大学医学部附属病院麻酔科・痛みセンター/緩和ケア診療部）
住谷昌彦（東京大学医学部附属病院緩和ケア診療部/麻酔科・痛みセンター）



© Copyright 2018 International Association for the Study of Pain. All rights reserved.

国際疼痛学会（IASP）は、科学者、臨床医、医療者、政策立案者が団結して痛みについての理解が進むように支援し、世界中の痛みに対する治療がより良いものになることを目指しています。

Yaeko Yokoshima, MD

Clinical Physician, Department of Anesthesiology and Pain Relief Center/Pain and Palliative Medicine, The University of Tokyo Hospital, Tokyo, Japan

Masahiko Sumitani, MD, PhD

Associate Professor, Department of Pain and Palliative Medicine/Anesthesiology and Pain Relief Center, The University of Tokyo Hospital, Tokyo, Japan

「痛みについての卓越した教育」世界年として、IASP は「痛みについての卓越した教育」に関する一連の報告書を作成した。これらの文書は、複数の言語に翻訳され、無料でダウンロードできます。詳細は www.iasp-pain.org/globalyear をご覧ください。

国際疼痛学会について

(the International Association for the Study of Pain®)

国際疼痛学会 (IASP) は、痛みに関する全ての科学、診療、および教育の分野における専門学会である。疼痛の研究、診断、または治療に関与する全ての者が入会資格を持つ (Membership is open to all professionals)。IASP には 133 カ国 7,000 人の会員が所属し、90 の国単位の支部学会、20 の分科会がある。



© Copyright 2018 International Association for the Study of Pain. All rights reserved.

国際疼痛学会 (IASP) は、科学者、臨床医、医療者、政策立案者が団結して痛みについての理解が進むように支援し、世界中の痛みに対する治療がより良いものになることを目指しています。